



New

2023年度  
New Kirari

VOL. 2

# Kirari

『笑顔であいさつ・みんながつながる安全な町』  
2024年(令和6年)3月11日発行 発行元 広報部  
発行責任者 会長 森本 和人



## 南千里中学校、千里新田小学校、千里新田こども園 の卒業生・卒園生の皆さん ご卒業・ご卒園おめでとうございます。



今年度、地域教育協議会の事業として実施（開催予算を一部補助したもの）をご紹介いたします。今後も引き続き、千里新田地区で育つ子ども達へ、より多くの機会提供ができれば嬉しいです。

### 人形劇団 クラルテ 「○・△・□～なにしてあそぼ～」



千里新田こども園と同園保護者会との共催事業として実施され、こども園の園児や保護者ら約40名が人形劇を楽しみました。

地域教育協議会からは3名がスタッフ参加し、来場者誘導などを担当しました。劇中では丸形、三角形・四角形のスポンジが舞台を右へ左で踊るように動き回り、園児たちに「これは何に見えるかな？」。

「たこやき！」「屋根！」「窓！」などの声が矢継ぎ早にあがって笑い声が会場

に響き渡るなど、終始なごやかな雰囲気です。園児たちは人形劇を楽しみました。



### 花いっぱいプロジェクト



南千里中学校と同校PTAとの共催事業として実施している「花いっぱいプロジェクト」の一環で、生徒たちが育ててくれたパンジーの苗を地域が受け取り、生徒たちと一緒に校内のプランターへ植え替え作業を行いました。

苗は、地域のアドプトロードや千里山竹園児童センターでの植え替えにも使用され地域の華やかに彩ってくれます。

花プロジェクトの南中生20名ほどが参加し、植え替え作業中には「花プロが大好き！」との声もあがり、ほっこりした気分になりました。



# 「気象予報士は“命を守る仕事”」 29歳の志

～水害ボランティアに参加して感じた悔しい思い～

NHK松山放送局にてお天気キャスターとして活躍されている気象予報士の田中勇作氏を講師に招いた出前授業が千里新田小学校との共催事業として実施されました。



第一部として“お天気教室”が開催され、雲の種類を紹介やペットボトルとアルコール消毒液を使って雲を作る体験もあり、参加した児童（小5）からは「雲がどうやってできるのか自分の目で確認できたのが楽しかった」とコメントがありました。

トがありました。

第二部は「情報産業」をテーマに、視聴者が分かりやすい伝え方の工夫など、実際のお天気ニュースの作り方を例にあげてお話がありました。講師の田中さんから、大学時代に水害ボランティアに参加して「避難するきっかけ（天気予報）があれば、助かった命があったのでは」という悔しい思いから気象予報士の道に進んだこと、お天気キャスターとして「天気予報は命を守る仕事」という思いをもって日々、伝え方を工夫し悩みながら仕事をしているといったことなどを、児童や保護者（PTA）・地域の方々との会話を交えながらお話いただきました。

第三部は「天気予報と防災」という観点から、教職員や保護者らを対象に、大阪での豪雨の原因や日頃からの災害への備えやハザードマップでの確認箇所など、個人の危機管理に関するお話をしていただきました。



# 「いのちの授業」 生まれてきてくれて「ありがとう」

～みなさんの存在は、奇跡そのもの～



1月25日（木）小学校多目的室にて、小学校2年生の生活科授業の一環として、助産師さんを講師に招いての「いのちの授業」が開催され、地域教育協議会からも広報部含め数名が出席しました。

助産師さんが、スライドや赤ちゃんのお人實際の赤ちゃんの体重や肌触りを再現したもの）など使って男女の結びつきから出産にいたるまでの過程を説明し、話を聞いている子ども達自身がいかに奇跡的な存在であるかをお話されていました。また、大人や友達に触らせてはいけない体の部分“プライベートパーツ”についても触れ「嫌だと思ったら、相手に嫌ですとはっきり伝えることが大事。大切な自分の身体は、しっかり守ろうね！」と強調してお話されていました。

お話の途中、妊娠議事体験キットを装着した男性教員が紹介されて



「しゃがんだり、靴ひもを結んだりすることが、とても難しい」と子ども達に説明し、子ども達が順番に装着して妊婦さん体験をしていました（広報部も体験させていただきました）



# 特集 千里山竹園児童センター15周年に向けて

今年15周年を迎える吹田市立千里山竹園児童センター。千里新田地区のみならず千二・千三地区も含め多くの赤ちゃん、子ども達、保護者が利用しており、地域になくてはならない施設になりました。今回は、児童センター特集記事として、館長である金尾 博之さんにお話を伺いました。



※館長イラスト  
千里新田小学校1年 小川 将大朗君

## 【問① 着任されてから約2年が経ちますが、率直なご感想は？】

コロナ禍真っ只中の2年前に着任しました。当時は児童センターの運営に関わって様々な制約があり従来通りが通用しない中、常に職員と「こんな時に子どもたちに何ができるのだろう」と話し合ってきました。その中で先生方のキラキラした目と熱い思いに接するたびに、自分自身も明るく元気に前向きな気持ちで毎日を過ごすことができました。

昨年5月からやっと通常の運営となりました。職員一同、コロナ禍前のにぎやかさを早く取り戻したいという気持ちを強く持ちました。児童センターが子どもたちにとって、「居たい」「行きたい」「やってみたい」場所となることは職員全員の願いです。また、児童センターで出会ういろいろな人とふれあうことで多様な考え方や違いに気がついてもらえたらと思っています。日々、子どもたちの姿を見ながら、「児童センターが本当にそんな場所になっているのかな」と自問自答しています。そんなことを考えながら「子どもたちの笑顔に癒されている」というのが今の率直な気持ちです。

## 【問② 利用者である子どもたちや保護者と接していて気づいたことは？】

子どもたちは児童センターでありのままの自分を出せています。どの子どもも心身ともにリラックスして自分らしく時間を過ごしています。「児童センター大好き！」な子どもは、「やってみたいことを自分で決められる」ことや「好きなことを好きなだけやれる」ということから児童センターのすべての活動を肯定的に捉えてくれています。そのような経験が子どもの成長に少しでもつながれば嬉しいなと考えています。また、子ども同士のトラブルもありますが、その解決には自らの言動を振り返ることができるかどうかが課題となっています。今は、当事者の問題をまわりの子どもたちが一緒に受け止め、寄り添うことで解決に至ることが多いように思います。

保護者の皆様には日頃の活動をご理解いただき、温かく見守って下さっていることに感謝・感謝です。また、行事等の様子をホームページに掲載していますのでご覧いただければ幸いです。

## 【問③ 印象に残っているイベントや出来事は？】

昨年7月にありました自主事業の「サマーフェスティバル」では、予想をはるかに超える参加があり大盛況でした。当日は一日の利用としては創立以来一番の来館者数となり、管理運営協議会とともに準備を進めた職員のモチベーションはすごく上がりました。

同じく10月にありました「センターまつり」もたくさんの方の参加がありました。当日「まつり」の各コーナーを進行するボランティアスタッフを地域の諸団体やPTAの皆さんにお願いしたところ100人近い方々にご協力をいただくことができました。児童センターが地域や保護者の皆さんに支えられていることを改めて感じました。

また、毎月第2日曜日に「館長とあそぼ」の時間があります。館長と一緒ににごっこやボール遊び、昔遊びをしています。館長の私自身が子どもたちと遊びながら一番楽しんでます。

## 【問④ 児童センター創立15周年に向けての思いをお聞かせください】

15年前に地域の有志の方により「地域の子どもは地域が守り育てる」という熱い思いを持って当センターが設立され、これまで管理運営協議会の運営のもと「子ども居場所」づくりを進めてきました。安定した管理運営体制と創造性・継続性のある事業により、利用する子どもたちの希望や保護者の要望に十分に答えることができたと考えています。設立当初から管理運営協議会の役員の方や保護者、歴代館長をはじめたくさんの方にご尽力いただき、現在の魅力あふれる児童センターとなっていますことに心より感謝申し上げます。

15周年の節目を機に、私をはじめ職員一同、設立当初の思いをしっかり受け止め、地域や保護者・学校と連携しながら取り組んでまいり所存ですのでよろしくお願い致します。地域・保護者の方とともに15周年をお祝いしたいと考えています。



吹田市立

千里山竹園児童センター

指定管理者 吹田市立千里山竹園児童センター管理運営協議会

「地域の子どもは地域が守り育てる」



## Flower, Green&Vegetable Division 花と緑と野菜の事業部プロジェクト

前号でもご紹介した南千里中学校生徒と地域で育てている野菜たちを取材してきました。今は、大根・はくさい・ブロッコリーは収穫済、玉ねぎ・ほうれん草・いちご・マスカットなどが植えられており、日々、生徒たちが中心となって世話をしているとのこと。収穫が楽しみです！



## 太陽の広場

### 【 こどもプラザ事業 】

吹田市では、放課後の児童の居場所の一つとして、『太陽の広場』事業を各小学校で実施しており、千里新田小の太陽の広場は、毎週水曜日に開催されています。

水曜日の放課後、図書室前の太陽の広場の受付には、ランドセルを持った児童の長い列ができます。子供たちは活動を見守るフレンドさん（地域ボランティア）と元気に挨拶を交わし、参加者名簿に学年・クラス・番号・名前・広場にきた時間を記入した後、自分で決めた帰宅時間まで、低学年図書室と運動場で自由に過ごします。



低学年図書室では宿題をしたり、読書を楽しみ、運動場ではサッカー、ドッジボール、バスケットや鬼ごっこなどのグループ遊びを楽しんでいます。また、太陽の広場で購入した一輪車、竹馬も人気で、上手な子にそのコツを教してもらいながら、乗れるまで頑張っています。けん玉は互いに得意技を披露し合い、縄跳びは跳べる回数を競い合ったりと、遊びを通して異年齢間の交流も生まれています。

## 令和6年能登半島地震のお見舞いメッセージ

能登半島地震にて被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

吹田市赤十字奉仕団千里新田地区連合分団 委員長 松山健司

### 【千新 青色防犯パトロール隊】

小学校の登下校の時間帯に青色ライトを点滅させながら二人一組でパトロールをしています。



### 運転手さん募集中！

一緒に運転・パトロールしませんか！  
事務局 大野和之 携帯:090-5898-0743

